

議員と話す会報告書

開 催 日 時	令和7年11月15日（土） 19時00分～20時30分		
開 催 場 所	産業振興センター 松阪市本町		
班 名	4 班		
出 席 議 員	代表者 <u>久松 倫生</u> ① <u>楠谷 さゆり</u> ② <u>小野 健二</u> ③ <u>沖 和哉</u> ④ <u>橘 大介</u> ⑤ <u>松原 里穂</u>		
	司会進行者	沖 和哉	
	報 告 者	松原 里穂	
	記 録 者	松原 里穂	
参 加 人 数	16名		
意見・要望等 主な質疑応答	別紙のとおり。		
代表者の所感	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 濱口 高志 様

令和 7 年 11 月 20 日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

4 班

代表者 久松 倫生

意見交換

【テーマ 松阪駅周辺の活性化について】

【開催形式】

ワークショップ形式

【意見等】

- ・市として駅を「観光客の入口」と「市民の出口」のどちらに位置づけるのか、将来像が不明確である
- ・数十年前の都市計画が現状に合っておらず、次世代の意見を取り入れた10年、20年後を見据えた計画が必要である
- ・夜の居酒屋が多いので、昼間も食事が楽しめる駅前にしていくべきである
- ・若い世代が関心を持てる駅前にしていき元気のある駅にしていきたい

【課題・問題点】

（１）都市計画・交通環境・公共機関に関して

- ・松阪市の都市計画区域が広大であることから、地域ごとの実情に応じた見直しが必要ではないかとの声がある
- ・車が通行しづらく、右折・左折がしにくいことがあげられる
- ・バス路線が少なく、運賃の高い。移動手段に困る住民も多く、公共交通の充実を求める意見が複数あった。
- ・駅周辺の駐車場が不足しており、駅前の交通利便性向上策が求められている
- ・約30年前の下水道工事以降、大型トラックの通行で家が揺れるようになり、地盤沈下の懸念があるため調査を求める声が上がった
- ・駅前の道路は車の速度が速く、歩行者が安心して横断できない。制限速度の引き下げ（例：30km/h→20km/h）や、物理的な減速装置の設置が提案された
- ・路上駐車が多く、買い物や通行の妨げになっている
- ・都会、空港とのアクセスを考えると松阪駅は大事。JRが交通系カードが使えないことに対して課題を感じる

（２）住宅・自治会加入に関して

- ・マンション入居者が自治会に加入しにくい状況が続いており、地域活動への参加率向上が課題となっている
- ・日野町・中町などでは、特定の地権者の土地が多く、空き家や税金対策目的の所有が増加しているとの指摘があった

（３）景観と商店街に関して

- ・ 店舗数の減少が続く中、「逆さま不動産」など、空き家・空き店舗のマッチングによる商業活性化策への期待も寄せられた
- ・ JR 駅前、特に週末夜間の喫煙者のたむろや運転マナーの悪さが、街のイメージを損なっている
- ・ 商店街ごとに街路樹や街灯が異なり、統一感がない
- ・ カラスの糞害対策として鷹匠の活用が効果を上げている一方、空き家にはアライグマなどが住み着き獣害も発生している
- ・ 駅周辺に待ち合わせに使えるスペースや施設がほしいとの要望がある。
- ・ 駅周辺の家賃が高く、住み続ける・開業するには負担が大きいとの意見が寄せられた
- ・ ベルタウン周辺のさらなる利活用を求める声もあった

駅周辺に空き家・空き店舗が多く、治安悪化が懸念される。税金対策で放置されているケースもあり、出店希望者とのマッチングがうまくいっていない

- ・ 倒壊の危険がある空き家には、行政代執行も視野に入れた対策が必要
- ・ 店舗と住居が一体化した「うなぎの寝床」構造が、貸し出しを難しくしている背景がある
- ・ 観光客向けの魅力的な宿泊施設（旅館など）が不足している
- ・ 若者が集まれる場所がない
- ・ 商店街と文化財が繋がっていない
- ・ 元の城下町の良さを活かしてない
- ・ ベルタウンに飲み屋が集中している
- ・ 防犯カメラがない

（４）子育て環境に関して

- ・ 子供が天候を気にせず遊べる室内施設がない
- ・ 道路の凹凸や陥没が激しく、ベビーカーや車椅子、妊婦の通行に支障をきたしている
- ・ 学生の集いの場がない

（５）防災に関して

- ・ 南海トラフ地震を見据え、初期消火体制や震災対応力の強化を求める意見が寄せられた
- ・ 地震時のリスクを考慮し、電柱の地中化を進めるべきとの意見が出た

（６）その他

- ・ IR 奈良の取り組みが改善してきたとの声も一部にあり、他地域の成功事例を参考にすべきとの指摘があった。
- ・ 特に高齢者世帯を中心に、いわゆる「買い物難民」への対応を求める声強い。

コンセプトが観光客相手か地元の人対象かわからない
現地の住人が保守的で計画が進まない

【解決案】

- ・人の流れを変えるインフラとして、南北自由通路の設置や、人々が集える広場（例：天理駅前広場）の整備が提案された
- ・伊勢神宮に行った人が松阪に寄ってくれるように観光案内の表示を統一する
- ・歴史的な雰囲気を作るライトや看板、ベンチの設置をするべきである
- ・商店街のアーチがあると活性化されている一步になるのではないか
- ・地盤沈下の懸念があるため、早急な調査を実施するべきである

代表者所感

この班は「松阪駅周辺 どうすればもっといい感じになりますか？」という問いかけで行った語る会であったが、駅前開発をどうするかといった限られたことにとどまらず多岐にわたって多様なご意見が出されたことが特徴であり取り組みの成果といえるのではないかと思う。

問題提起や課題は都市計画、居住空間としての駅周辺の課題、家賃や空き店舗など商店街の課題、文化と商業部門、観光との連動、交通対策といった政策上の課題、住民意識や安心安全、災害対策、子育てなど出されたご意見の多くが今の松阪が抱える生きた課題を示していると受け止められる。

ご参加いただいた方々は地域の自治会など住民組織の方、文化団体やイベントなどを主導されている方、商店街の役員、商店の経営者から文化に関心をお持ちの市民など多様な方々でそれぞれの思いや実践への意識に違いがあることも共有できたことはこれからの市政、市議会の取組と運営に生かしていくべき視点ではないかと受けとめる。

4班としては関係者や各団体へ呼びかけるなどの努力が一定実ったと受け止められ、これからの語る会など広聴機能の前進の一端となったのではないかと思う。

議員と話す会の様子

